「友松」の変遷 Ⅱ

2011.1.19　発行
シリーズ２－11
「友松」46 号

（1）　第46号　友　松　会　報　昭和34年3月5日（木曜日）

所感　会長　小林梅茂（大正四年卒）

舎監の思い出　寄員　桜井祐三（学芸学部助教授）

発行所　横浜市西区紅葉丘五三　横浜市教育会館内　神奈川県友松会　電話 ❸ 8589 番　振替口座 横浜359番　編集人　森田浪太郎　発行人　西川豊吉

会員名簿いよいよ出来

昭和三十四年一月現在　会員名簿　神奈川県友松会

日本全国出版物網羅　二階は一流出版社別陳列販売場　株式会社　近藤書店　社長　近藤音次郎　東京・銀座五

外国書籍雑誌・LPレコード　カメラ直輸入販売　イエナ精光株式会社　社長　近藤音次郎　東京・銀座五

会長「所感」に「学芸学部の独立性」という見出しがり「思うに今までの学芸学部の独立性が何かしらもたついて『教員養成機関』という点がアイマイ化していたようです。（中略）学芸学部の独立性が具体化しつつあることは御同慶にたえないところである」と述べている。

また「学芸学部が横浜清水ヶ丘へ統合さるべきに非ず、鎌倉へとの考えが大分高まりつつあるようです」とも述べている。

（3）　第46号　友　松　会　報　昭和34年3月5日（木曜日）

母校の移転について　大二三年卒　近藤音次郎

米壽の藤村先生　大三年卒　根本八五郎

母校の現況

右の副会長の「母校の移転について」記事にも、「将来の教育者となる学生の育成には鎌倉が文化都市として、又環境上最も適当な場所である」と、移転に異を唱えている。

（5）　第46号　友　松　会　報　昭和34年3月5日（木曜日）

恩師を迎えて

「恩師を迎えて」の記事は、大正４年に卒業した会員が「同期会」の報告を記したものである。神奈川師範と神奈川女子師範の卒業生の「同期会の様子の報告で、話題は共に、懐旧談・近況の報告等々で大変楽しい会であったようである。

明治に卒業した会員が、「老人倶楽部の歌を作った」と投稿しているので記しておく。

年はとっても元気なものさ　老人倶楽部の仲間にはいり
歌って踊って 踊って歌う　これで命が延びれば得さ